

Beaconの有効活用へソリューションをパッケージ化 専用SDKによりアプリの構築も簡単に

省電力の近距離データ通信により、近くにいるスマートフォンに情報をプッシュ配信できるBeaconは、店舗入店時にクーポンやお得情報を送るなどきめ細かい情報配信ツールとして期待されている。

ただ、マーケティングに利用したい店舗などの企業側、アプリ開発側ともに自社だ

けで端末の設置から配信までを行うには負担が大きかった。

そこで、エンドユーザ、店舗、アプリ開発企業といった関係者のニーズをかなえるプラットフォームとして開発されたのが、unerryの「Beacon Bank」である。設置Beaconの有効活用、アプリ開発を支援する

専用SDK、最適なメッセージを識別したプッシュ配信機能、ログ蓄積、偽装防止など、活用に必要な機能を統合的に提供する。

Beacon Bankに登録されたBeaconは、設置者以外も利用できる公開Beaconとなる。自社のBeaconを他社が利用した場合、自社に自動的に報酬が入るという仕組みだ。

iOSでは、Beaconの識別番号を最大20個しか登録できない課題があったが、本システムでは、近くにあるBeacon20個を動的にローディングする技術を開発。大規模なO2Oやログ分析にも対応可能とした。

これによって、エンドユーザは自分に必要な情報のみを受け取ることができる。また広告主はエリアを絞った情報配信など効果的な広告活動を行うことができる。

図 Beacon Bankのイメージ

